



SCB

ニュース&トピックス

No.2024-73

(2024. 9. 13)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 西 俊樹

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

データで読み解くこれからの信用金庫経営 (16) 貸出金利回

— 優良な貸出金の積み上げが信用金庫における収益性向上の鍵 —

ポイント

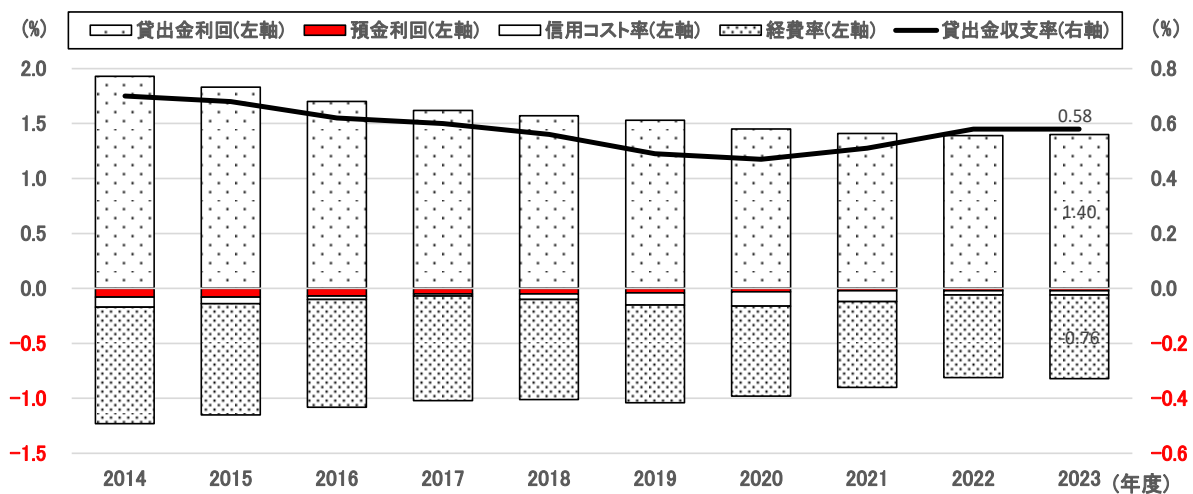
- 2023年度の全国信用金庫の貸出金利回は、前期比0.01ポイント上昇の1.40%となった。過去10年間における貸出金利回をみると、2022年度まで低下していたが、2023年度は僅かに上昇した。
- 業態別では、信用金庫の貸出金収支率は、2020年度は信用コスト率の上昇等の影響を受けて低下したものの、2021年度以後改善傾向にある。
- 信用金庫別の貸出金収支率では、2023年度には0.50%以下の信用金庫が最多であるが、一方で1.00%超の信用金庫が増加しており、信用金庫間での差が拡大しつつある。

1. 貸出金利回(全国)・貸出金収支率の状況

2023年度の全国信用金庫の貸出金利回(貸出金利息/貸出金(平残))は、前期比0.01ポイント上昇の1.40%となった。過去10年間における貸出金利回をみると、2022年度まで低下していたが、2023年度は僅かに上昇した。

また、信用コストを加味した預貸金利鞘である貸出金収支率(貸出金利回-預金利回-信用コスト率¹-経費率(以下「貸出金収支率」という。))をみると、前期と同じく0.58%であったが、2021年度以降は上昇傾向にある(図表1)。

(図表1) 貸出金利回(全国)・貸出金収支率の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

¹ 信用コスト率=信用コスト/貸出金(平残)
 信用コスト=(一般貸倒引当金繰入額+個別貸倒引当金繰入額+貸出金償却)-(貸倒引当金戻入益+償却債権取立益)

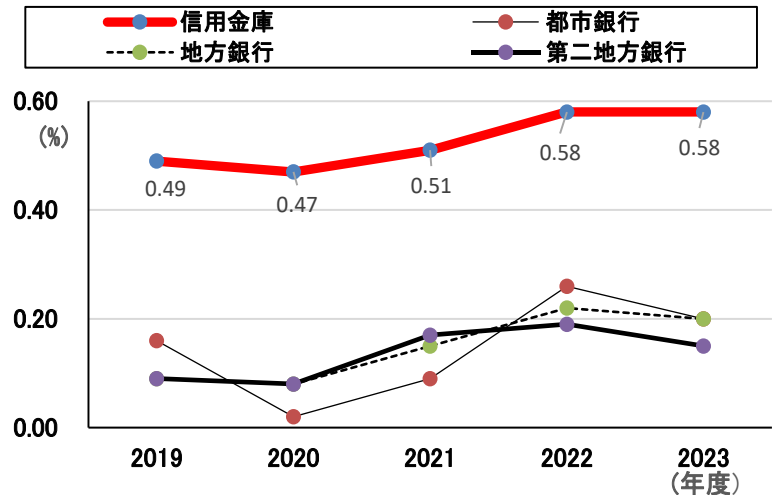
2. 業態別貸出金収支率の状況

業態別に、近年5年間における貸出金収支率の推移を示す(図表2)。

信用金庫の貸出金収支率は、2020年度は、信用コスト率の上昇等の影響を受けて低下したものの、2021年度以後改善傾向にある。

また、信用金庫の貸出金収支率は、貸出金利回が高い水準にあることを主因に、都市銀行、地方銀行および第二地方銀行を上回って推移している。

(図表2)業態別貸出金収支率の状況



(備考) 1. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 他業態は全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」より作成

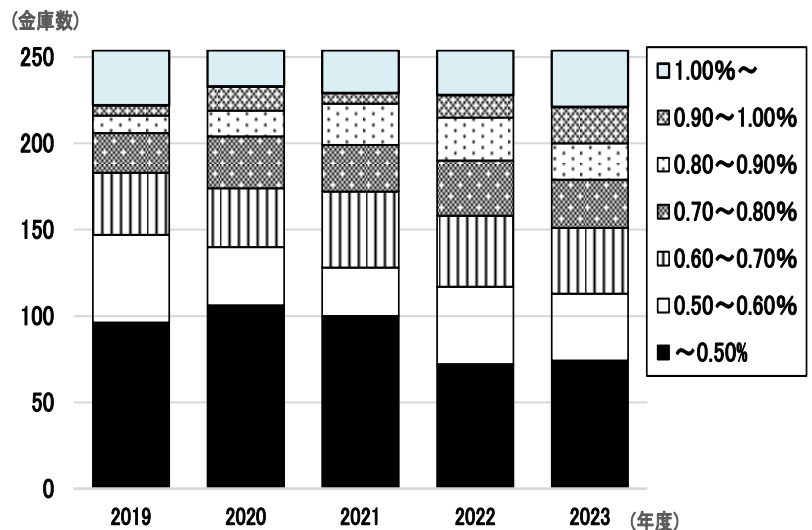
3. 信用金庫別貸出金収支率の状況

次に信用金庫別に、近年5年間における貸出金収支率の推移を示す(図表3)。

2023年度には、0.50%以下の信用金庫が最多であるが、一方で1.00%超の信用金庫が増加しており、信用金庫間での差が拡大しつつある。

また、2期間比較(2019年度と2023年度)で貸出金収支率を確認したところ、上昇162金庫、低下85金庫、変化なし7金庫と、上昇金庫が多い状況となっている。

(図表3)信用金庫別貸出金収支率の状況



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

全国信用金庫の貸出金利回は、他業態に比べると依然高い水準にあり、貸出金収支率においても高い水準にあるなど優位性があるものと思われる。今後、いかに優良な貸出金の積み上げが図れるかが信用金庫における収益性向上の鍵となろう。

以上

※信用金庫業界の各種データは、信金中央金庫 地域・中小企業研究所ホームページの「信用金庫統計」(<https://www.scbri.jp/publication/toukei/>)に掲載されています。併せて、ご活用ください。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。